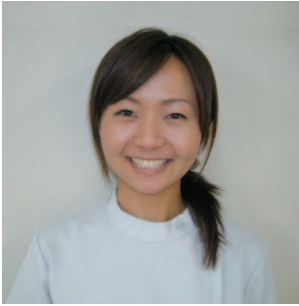


自分にとっての介護の仕事



高木松乃さん（理学療法士）

「生活の場」である介護老人保健施設などでは、日常生活に即したケアの表現が必要です。介護は生活の中の「できる」を支える大切な仕事だと思います。



佐藤千夏さん（看護師）

人生経験の豊かな方たちとかかわることで、いろいろ学ぶことができます。また、さまざまな状態の方の健康が維持することに達成感と喜びを感じています。入居者様の健康と笑顔が仕事のやる気の源になっています。



林 美香さん（介護福祉士） 介護の仕事の魅力は、何と言ってもお年寄り一人ひとりの笑顔と優しさに触れられることです。業務に追われる中でも一緒に笑ったり、悩んだり…。そんな時間にいつも癒されています。私が介護用品の整理をしていると「一人でやっていたら大変ね」と、利用者さんがか弱い手で手伝おうとしてくださったときは、涙ができました。



近江宏征さん（介護職員）

人肌の温かさ、幸せな気持ちになれる仕事です。

サービスを利用されている方々とお話する機会も多く毎日が学びであり、感動することが毎日の充実感であり、頑張っていていくための原動力となっています。

嬉しかったことは、利用者さんやご家族のみなさんからの「ありがとう」の一言。心の通じあう交流をしているときです。

サービスを利用されている方々とお話する機会も多く毎日が学びであり、感動することが毎日の充実感であり、頑張っていていくための原動力となっています。

サービスを利用されている方々とお話する機会も多く毎日が学びであり、感動することが毎日の充実感であり、頑張っていていくための原動力となっています。



小川裕子さん（管理栄養士）

食欲がなくやせてしまった方が、献立や調理の工夫で少しずつ食欲が出て体重が増加したときはとてもうれしいです。



鈴木貴晃さん（介護福祉士）

笑顔を見たときや感謝されたときは嬉しく思います。また、昔のことも分かり勉強になっています。



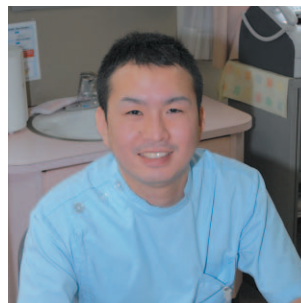
瀬戸山健一さん（理学療法士）

介護の仕事は、入所者の方々など人と接する場面が多いので、声かけや介助のやり方ひとつで、その方の意欲や能力を引き出すことができます。



増田和栄さん（歯科衛生士）

歯科受診をすすめ、入れ歯を作ったら「何でも食べられるようになったよ」と笑顔で言われたときや、口腔ケアを行ったあと「ありがとうね」と一言いわれたときに、この仕事をしていて良かったと感じています。



富井良明さん（ケアマネジャー）

この仕事を選んだきっかけは、人とかかわる仕事がしたかったから。現在の職場へは学生時代に実習に来ました。その際の、職員の方々の利用者さんにかかわる優しい姿勢や、利用者さんの笑顔を見て、この仕事をしたいと思いました。



篠崎千代子さん（生活相談員）

介護の仕事の魅力は、終末期のケアのときに家族と一緒に支えていると実感できることです。また、表情のない方が、会話を交わすことで笑顔が見られるようになったときは、嬉しく思います。

▶ 渡辺さんご夫婦



「いつでも連絡でき安心しています」

〔渡辺茂樹さん（家族：利用者の夫）〕

3年ほど前から妻が自宅で介護サービスを利用しています。週に一度の訪問入浴と一日2回の訪問看護、一日1回の訪問介護を利用しています。皆さん親切にお世話をしてくれて、とても助かっています。

また、事業所の方から「何かあればいつでも連絡してもらっていいですよ」と言ってもらい、とても安心しています。正月なども休み無くやって来てくれて、大変な仕事だとは思いますが、とてもありがたいです。

「うれしくてつい無理をしてしまいます」

〔渡辺綾子さん（利用者本人）〕

今はいい仕組み（介護保険）があって大変ありがたいです。昔のように（介護は）家族だけではとてもやりきれないし、こうして自宅で生活できて幸せに感じています。ふだん寝たきりなので、車椅子で外の景色を見られるとうれしくて、つい、無理をしてしまうこともあります。いつも来てくれる介護士さんや看護師さんとの会話の中で、いろいろと外のお話を聞かせてもらえたりすることがとても楽しみです。介護のお世話は、きれいなことばかりではないし、とても大変な仕事だと思いますが、みなさん親切にしてくれますし、心のできた人なのだ、若いのに感心したくなる人もたくさんいます。

介護は、とても大変な仕事ですが、本当にありがたいものだということを、みんなが理解してあげてほしいと思います。

「利用者同士で友達もできました」

〔澤入平八さん（利用者本人）〕

5年ほど前からデイサービスを利用して、体操やお風呂のほか、床屋さんに来てくれたりもしています。月に一度は買い物に連れていってくれますし、ほかにも初詣でやぶどう狩りなど、季節でいろいろなところへ連れて行ってくれます。週に3回デイサービスを利用していますが、疲れるようなことなく、また、利用者同士で友達もできました。職員の方とも顔なじみになりよくしてくれるので、困ったことも無く、いつも楽しみにしています。



▲自宅でひ孫と遊ぶ澤入平八さん

「家族も知らない本人の良い一面を見つけられました」

〔鈴木信子さん（家族：利用者の子）〕



介護サービスを利用するようになってから、本人も生活にメリハリができたように感じます。例えば、デイサービスの日に、朝から自分で準備をして待っていますし、身だしなみにも気を使うようになりました。利用の際には、体温や血圧なども確認してくれるので、そういった点でも家族は安心できています。

デイサービスといっても、クリスマスなど季節に合わせたイベントなどもやってくれますので、本人も楽しみにしています。家族だけではそうはいかないと感ずることがあります。また、介護してくださる方たちが、家族も知らないような、本人の良い一面を見つけ教えてくれたこともあり、とてもよく見てくれています。

取材メモ

実際の介護の現場は、大変な仕事であると同時に、感謝の気持ちや、本物の笑顔が溢れ、たくさんの人たちがやりがいを持って働いている。技術の向上や介護用品の進歩などにより、以前とは変わってきた。交換が大変だといつもづき、介護の現場では、排せつが、介護の現場では、排せつは、お年寄りの健康管理を行う上で欠かせない、大切な情報です。このケアも、おむつの性能向上に伴い、お年寄り一人ひとりの身体状態に合わせて、ながら、効率よく行うことが、可能になってきています。

介護職員の賃金については、新聞報道などにあるように、国が介護報酬の改定による賃金見直しの動きを見せているなど、介護ニーズの高まりとともに介護の職場が、より働きやすくなるよう、少しずつ変化してきています。

今後高齢者が、安心して暮らしていけるよう、介護の仕事に対する社会の理解と、身近な介護を支える人たちの一層の活躍が期待されます。